2018 年 7 月
りゅうぎん総合研究所

調査レポート

沖縄県内における 2018 年プロ野球春季キャンプの経済効果
― 経済効果は過去最高となる 122 億 8,800 万円 ―

【要　旨】

- 2018 年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、122 億 8,800 万円となり、2017 年の 109 億 5,400 万円を上回り過去最高となった。
- 延べ観客数は、約 37 万 7,000 人で過去最高となり、入域観光客数が好調に推移するなか、概ね天候に恵まれ、土日に開催された練習試合に多くの観客が訪れたことや、注目選手を見ようとファンだけでなく初めてキャンプを訪れた人もいたことから、観客数は大幅に増え、前年より約２万 8,000 人増加した。
- 観客数のうち県外からの観客は約８万 4,000 人と推測され前年より１万 3,100 人増加した。
- 今年の経済効果は、前年と同様の球団数でのキャンプ実施だったが、前年に引続き県外からの観客の大幅増による宿泊費や飲食費、土産・グッズ購入費の増加などから過去最高となった。
- 今年の経済効果を産業別に多い方からみると、宿泊業が 22 億 5,600 万円、商業が 15 億 5,000 万円、飲食サービス（飲食店など）が 15 億 200 万円などの順であった。
- プロ野球春季キャンプは、一流選手の練習を見学できるだけでなく、多くの観客や関係者が来沖し、消費活動を行い、県経済に大きな影響を与えているため、県全体で受け入れ態勢のレベルアップを図っていかなければならない。
- 県内では、プロバスケットボールやプロサッカーに対応する施設が建設または予定されている。プロ野球春季キャンプをはじめスポーツ産業は、県経済の拡大にむけて今後ますます重要な役割を担うようになろう。

１.2018 年の春季キャンプの概要

（１）キャンプ実施球団の状況

2018 年２月に沖縄県内で春季キャンプを実施した国内プロ野球球団は、12 球団中９球団で前年と同じ球団数だった（図表１）。１軍キャンプは９球団、２軍キャンプは５球団でともに前年と同じ球団数となったが、巨人が県内で初めて３軍キャンプを実施したことから、３軍キャンプは１球団となった（以下、球団名は「巨人」のような略称を用いる）。

また、日本ハムは、名護市営球場が建て替え工事のため球場を一部変更して実施し、楽天は久米島でのキャンプ後に金武町でも正式にキャンプを実施した。また、中日は松坂選手が初めて県内でキャンプを実施し多くの観客を集めた。

（図表１）沖縄県内における2018年春季キャンプの実施状況

球団名	キャンプ地	開催球場	キャンプ期間		
			2月	3月	日程
北海道日本ハムファイターズ	名護市 国頭村	あけみおSKYドーム かいぎんスタジアム国頭			2/17～2/23
（2軍）	国頭村	かいぎんスタジアム国頭			2/1～2/23
広島東洋カープ	沖縄市	コザしんきんスタジアム			2/16～2/27
中日ドラゴンズ	北谷町	北谷公園野球場			2/1～2/28
（2軍）	読谷村	読谷平和の森球場			2/1～3/1
横浜DeNAベイスターズ	宜野湾市	アトムホームスタジアム宜野湾			2/1～2/28
（2軍）	嘉手納町	嘉手納町野球場			2/1～2/26
東京ヤクルトスワローズ	浦添市	浦添市民球場			2/1～2/26
阪神タイガース	宜野座村	かりゆしホテルズボールパーク宜野座			2/1～2/28
東北楽天ゴールデンイーグルス	久米島町 金武町	久米島野球場 金武町ベースボールスタジアム			久米島町2/1～2/11 金武町2/13～2/23
（2軍）	久米島町	仲里野球場			2/1～2/18
千葉ロッテマリーンズ	石垣市	石垣市中央運動公園野球場			2/1～2/19
（2軍）	〃	〃			2/1～2/27
読売ジャイアンツ	那覇市	沖縄セルラースタジアム那覇			2/15～2/27
（3軍）	〃	〃			2/1～2/13

※球団は沖縄県でのキャンプを始めた年の順で掲載

（２）キャンプ参加者・観客の人数

①選手・球団関係者・報道陣

今年のキャンプ参加人数は、選手（１～３軍計）・球団関係者は全９球団合計で、前年同数の約 1,000 人となり、報道関係者や解説者が約 2,100 人（前年比 100 人増）となった。報道関係者や解説者は、中日の松坂選手やヤクルトの青木選手が県内でキャンプを実施したことや、昨年のリーグ優勝チームの広島カープが県内キャンプを実施したことなどから増加した。

②観客数

キャンプ期間中の延べ観客数は、約 37 万 7,000 人（オープン戦含む）となった。名護市営球場の建て替え工事や雨天によりオープン戦の中止があったが、期間中は、概ね天候に恵まれ、土日に開催された練習試合に多くの観客が訪れたことや、中日のキャンプでは松坂選手を見ようとファンだけでなく初めてキャンプを訪れた人もいたことから、観客数は大幅に増え、前年（約 34 万 9,000 人）より約２万 8,000 人の増加となった。

そのうち、県外からの観客数は約８万 4,000 人と推測され、毎年キャンプに訪れるファンや県外からのキャンプ見学ツアー客をはじめ、上記のような注目選手のキャンプ参加や好調な入域観光客数の増加などから観客数は増え、前年（約７万 900 人）より１万 3,100 人の増加となった。

石垣島では前年に引き続き台湾のプロ野球チームを招き交流試合が行われ多くの観客を集めた。また、本島内での韓国プロ野球チームとの練習試合などでは、韓国からの観戦ツアー客の姿もみられ、球団の PR 効果などから、台湾からの観客や女性の観客が増えたとみられる球団もあった。

２．経済効果の試算について

（１）春季キャンプの関連支出額（直接支出額）

キャンプにおいては、県外からの滞在者が県内で宿泊、飲食、娯楽レジャーなどに支出するほか、多くの県民がキャンプ地へ出かけて見学の際に飲食や土産品を購入する。また、受入地の市町村による練習施設等のインフラ整備や、協力会によるキャンプ応援のための関連経費の支出などがあり、これが直接支出額となる。

こうした支出額について試算した結果、総額で 81 億 3,600 万円（図表２）となり、前年（71 億 7,400 万円）を９億 6,200 万円上回った。

試算結果の内訳をみると、宿泊費が 22 億 5,300 万円で最も多く、次いで飲食費が 18 億 5,800 万円、土産品・グッズ購入 14 億 7,000 万円、交通費 12 億 200 万円、娯楽・レジャー費７億 1,400 万円、練習施設等の整備費１億 2,100 万円などとなっている。

県外からの観客増加により宿泊費（前年比２億 5,100 万円増）や飲食費（同２億 4,700 万円増）、土産品・グッズ購入（同１億 6,200 万円増）など多くの項目で増加となった。

（図表２）2018年プロ野球春季キャンプ関連支出額（直接支出額）

支出項目	支出額（百万円）	前年差（百万円）
宿泊費	2,253	251
飲食費	1,858	247
土産品・グッズ購入	1,470	162
交通費	1,202	151
娯楽・レジャー費	714	61
練習施設等の整備費	121	▲ 19
クリーニング代	70	6
アルバイトへの支払い	51	10
施設等使用料	36	▲ 3
その他	362	95
合計	8,136	962

（２）春季キャンプの沖縄県内における経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は 100％ではないため、（１）で求めた直接支出額 81 億 3,600 万円に自給率を掛けると県内で供給された分である 71 億 6,800 万円が求められ、これが直接効果となる。

次に、直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、施設整備費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業の売上の増加へと波及していく。これを１次間接効果といい、これが 32 億 4,800 万円となる。さらに、直接効果と１次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、これら雇用者の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これを２次間接効果といい、これが 18 億 7,200 万円となる。

これらの直接効果、１次間接効果、２次間接効果を合わせた金額が 122 億 8,800 万円となり、これがいわゆる県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果となる。

また、これらの効果のうち、賃金等の雇用者所得や企業の営業余剰などに当たる粗付加価値額が 72 億 2,400 万円となり、この中で雇用者所得が 29 億 5,900 万円となる（図表３）。

今年の経済効果である 122 億 8,800 万円は、これまでで最も大きかった 2017 年の 109 億 5,400 万円を 13 億 3,400 万円上回り、過去最高の経済効果となった。

（図表3）2018年プロ野球春季キャンプ経済効果の試算結果 【単位：百万円】

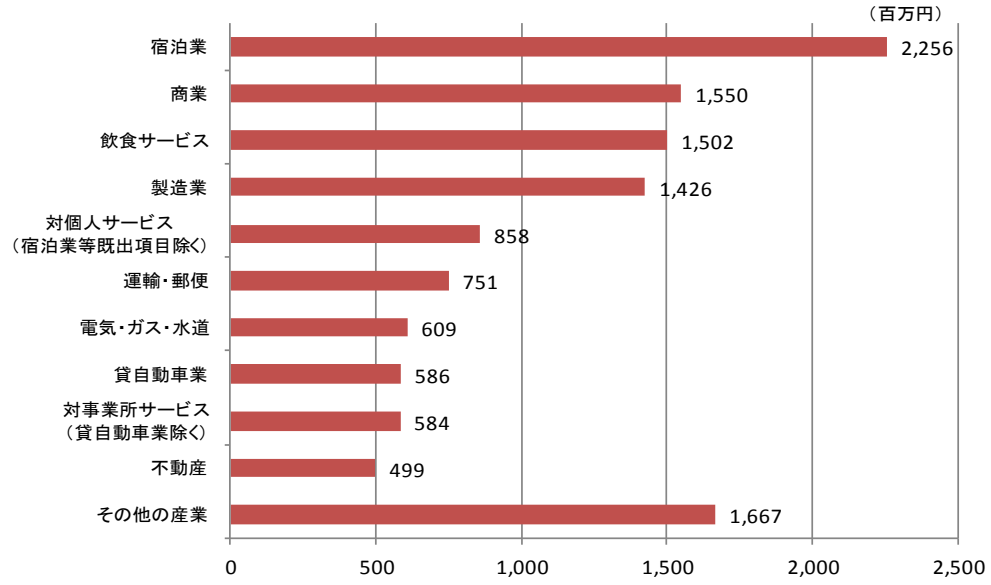
	経済効果（生産誘発額）	粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額	営業余剰誘発額
直 接 効 果	7,168	3,663	1,651	734
1 次 間 接 効 果	3,248	1,688	839	439
2 次 間 接 効 果	1,872	1,872	470	360
総合効果（経済効果）	12,288	7,224	2,959	1,533
直 接 支 出 額	8,136	ー		
波 及 効 果	1.5（倍）…(総合効果/直接支出額)			

（注）1．直接効果は、直接の支出による効果（自給率が100％でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る）。
2．1次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。
3．2次間接効果は、直接効果、1次間接効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。
4．生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。
5．付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値（雇用者所得や営業余剰など）。
6．端数処理により合計は合わないことがある。

（３）産業別の経済効果

今年の経済効果である 122 億 8,800 万円を産業別にみると、宿泊業が 22 億 5,600 万円と最も大きく、次いで商業が 15 億 5,000 万円、飲食サービス（飲食店など）が 15 億 200 万円、製造業（土産品の製造や食品加工など）が 14 億 2,600 万円、対個人サービス（宿泊業等既出項目除く）が８億 5,800 万円、運輸・郵便が７億 5,100 万円の順となっている（図表４）。

（図表４）2018年プロ野球春季キャンプにおける産業別経済効果



３．キャンプ経済効果の課題

今年のプロ野球春季キャンプの経済効果は、122 億 8,800 万円となり、経済効果、観客数ともに過去最高を更新した（図表５）。キャンプ実施の球団は前年と同数の９球団となったが、巨人の県内初の３軍キャンプの実施や、注目選手などを目的に県外から野球ファンが訪れたことにより消費額が増え、前年より宿泊業や飲食サービス（飲食店）、商業、製造業などに与える経済効果が増加した。今後も、経済効果を増加させるためには、観客数や１人当たりの消費額の増加が必須であり、消費を促すための仕組みづくりが必要とみられる。

また、毎年、県内でのキャンプ定着化に向け、各協力会などは、球団の要望に対しスピード感を持って対応しており、施設の整備については、各球場で引き続き改善傾向がみられた。今後も、可能な限り施設整備の要望には対応していくことが望まれる。

一方で、協力会により人手や予算の違いがあることから、それぞれの取り組みに差がみられ、ヒアリングでは、他球団の受け入れ側の関係者との情報交換が不十分との声や、人手不足から、誘導員やボールボーイなどの確保やキャンプ期間に出店する飲食店の確保などが難しくなっているとの声もあった。

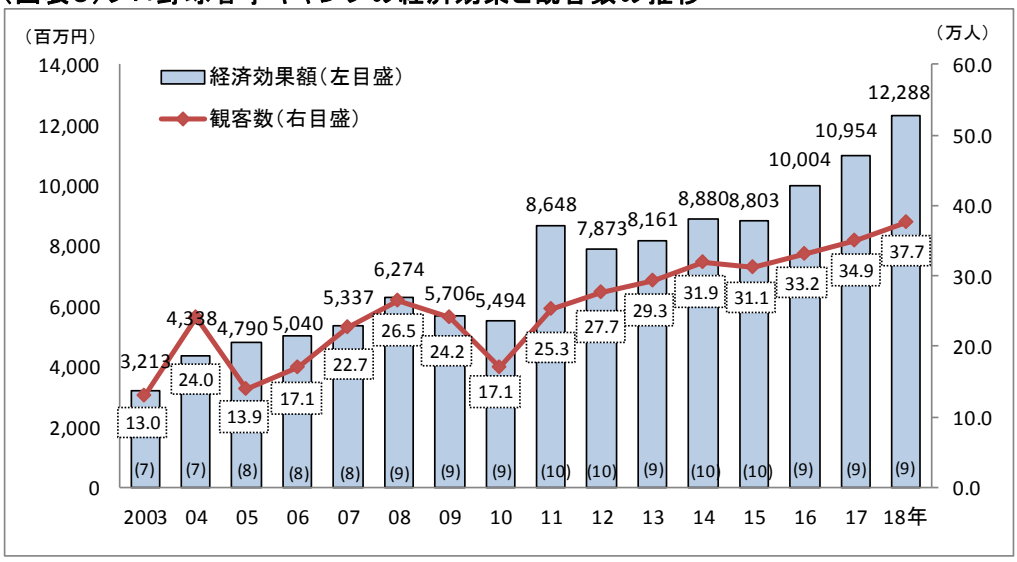
そのほか、観客数が増加することで、駐車場の確保が課題となっており、さらに、県外客のバスやタクシー、モノレールなどの利用が増えるなか、目的の球場までの行き方がわからない、または案内資料が不明確との声もあり、各球場へのより詳細な行き方の情報発信も必要だとみられる。

プロ野球春季キャンプは閑散期の観光振興において貴重なイベントとなっており、より魅力的な観光資源とするために、県全体で受け入れ態勢のレベルアップを図っていかなければならない。そのために、例えば、キャンプ期間限定で横断的に人手や情報交換・共有・蓄積ができるような専門チーム組成を行うことも一案と考えられる。

このように、県内でのプロ野球春季キャンプは、一流選手の練習を見学できるだけでなく、多くの観客や関係者が来沖し、消費活動を行い、県経済に大きな影響を与えている。

県内では、プロバスケットボールやプロサッカーに対応する施設が建設または予定されている。プロ野球春季キャンプをはじめスポーツ産業は、県経済の拡大にむけて今後ますます重要な役割を担うようになろう。

（図表５）プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



※（　）内は沖縄県内でキャンプを実施する国内プロ野球の球団数

以上

2018 年 7 月
りゅうぎん総合研究所

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況（1979年～2008年）

暦　年	日本ハム	広島	中日	横浜	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
1979	（投手陣）名護市	◎						（○）				
80		◎						（○）				
81	（一軍）名護市 ○									◎		
82		（一軍）沖縄市	○									◎
83			（一軍）石垣市							○		◎
84	（一軍）名護市（二軍）宜野座村	◎			○							
85	（一軍のみ）名護市		（投手陣）具志川市				◎					○
86		○										◎
87			（一軍）石川市具志川市	（一軍）宜野湾市						○		◎
88			○									◎
89			（一軍）石川市（二軍）具志川市		（投手陣）糸満市			（○）	（投手陣）那覇市	◎		
90					（一軍）糸満市					○	（一軍）読谷村（二軍）嘉手納町	◎
91		○			（一軍）糸満市（二軍）那覇市							◎
92						○						◎
93					（一、二軍）平良市糸満市	◎						○
94					（一、二軍）平良市、糸満市、城辺町					◎		○
95					（一軍）平良市（二軍）城辺町 ○	◎						
96	（一軍）名護市（二軍）宜野座村		（一軍）北谷町（二軍）うるま市	（一軍）宜野湾市（二軍）嘉手納町	◎					○		
97			（一軍）石川市（二軍）読谷村			◎						○
98				◎								○
99			○								◎	
2000						（一軍）浦添市				◎	○	
01						◎		（○）				
02										◎		○
03	（一軍）名護市（二軍）東風平町						（一軍）宜野座村 ○				◎	
04			（一、二軍）北谷町読谷村 ○		（一軍）平良市（二軍）平良市　城辺町							◎
05			（一軍）北谷町（二軍）読谷村北谷町		（一軍のみ）平良市		○	（一、二軍）久米島町	◎			
06	（一軍）名護市（二軍）八重瀬町→国頭村 ◎		（一軍）北谷町（二軍）読谷村 ○		（一軍のみ）宮古島市							
07	（一軍）名護市（二軍）国頭村 ○		◎							○		
08									（一軍のみ）石垣市	○		◎ ○

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況（2009年～2018年）

暦　年	日本ハム	広島	中日	横浜	オリックス	ヤクルト	阪神	楽天	ロッテ	巨人	ソフトバンク	西武
09	○				（一、二軍）宮古島市	（一軍）浦添市（二軍）八重瀬町				◎ ○		
10			○						◎		○	
11			○							（一軍のみ）那覇市	◎ ○	
12	○									◎ ○		
13						（一軍のみ）浦添市		◎ ○		○		
14									（一、二軍）石垣市	○	◎ ○	
15					（二軍のみ）宮古島市	○					◎ ○	
16	◎ ○	○										
17		○									◎ ○	
18										（一、三軍）那覇市		
一　軍キャンプ地	スコッツデール/名護市	宮崎県/沖縄市	北谷町	宜野湾市	宮崎県	浦添市	宜野座村	久米島町/金武町	石垣市	宮崎県/那覇市	宮崎県	宮崎県/高知県
二　軍キャンプ地	国頭村	宮崎県	読谷村	嘉手納町	宮崎県	宮崎県	高知県	久米島町	石垣市	宮崎県	宮崎県	高知県

（備考）　1. 太線内のシャドー一部分は沖縄県内で春季キャンプを実施。○はリーグ優勝、◎は日本シリーズ制覇。
2. 楽天の列の（○）は、05年からオリックスと合併した旧・近鉄のリーグ優勝。
3. 日ハム（1軍）の18年の名護市キャンプは、新球場建築中のためサブグランドやブルペンでの練習となる。

【補注２】: 本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の平成 23 年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類 35 部門表をベースにしたが、35 部門表ではキャンプにおける主な支出項目である「宿泊業」や「飲食サービス」、「貸自動車業」等の部門が明示されていないので、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表（401 行×343 列）から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要（＝県内居住者の需要）に対する自給率であるため、移輸出（＝非居住者の需要）は対象外となる。このため、統計上、移輸出である「県外からの滞在者の支出（＝非居住者の需要）」の経済効果を試算する際に、そのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要（県外旅行等を含む）のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きいため、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、キャンプ関連の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに 100%とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を 100%に設定し直して使用した。

経済波及効果を求める式は以下のとおりである。

$$\triangle X_1 = [I - (I - \widehat{M})A]^{-1}(I - \widehat{M})\triangle F$$

$$\triangle X_2 = [I - (I - \widehat{M})A]^{-1}(I - \widehat{M})ckw\triangle X_1$$

$$\triangle X = \triangle X_1 + \triangle X_2$$

$\triangle X_1$：一次生産誘発額（直接効果＋一次間接効果）

$\triangle X_2$：二次生産誘発額（二次間接効果）

$\triangle X$　：総生産誘発額（経済波及効果＝直接効果＋一次間接効果＋二次間接効果）

I：単位行列

$\widehat{M}$：移輸入係数（対角行列）

A：投入係数（行列）

$\triangle F$：最終需要増加額

c：民間消費支出構成比

k：消費転換係数

w：雇用者所得率